（別紙4）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390200253		
法人名	社会福祉法人グリーンコープ		
事業所名	グループホーム　ほのか・八代		
所在地	熊本県八代市本町四丁目２－２８		
自己評価作成日	平成31年　1月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益財団法人　総合健康推進財団
所在地	熊本市中央区保田窪1-10-38
訪問調査日	平成31年　2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設から9年経ち、看取りや退去され新しく入居された方も皆さんと落ち着いて生活されています。老いても体が不自由になられても住み慣れた我が家のように暮らして頂ける様に、一人ひとりのペースに合わせ、その方の好み、これまでの生活習慣を把握し、その方に合ったケアを行います。入浴は毎日入りたい方は毎日、お湯は、一人ひとり入れ替え、ゆっくり入っていただいています。食事は安心・安全なグリーンコープの食材を利用し、時にはほのかの畑で採れた野菜を使用します。おやつ作りなどは利用者の方と一緒に行うこともあります。誕生会はその方の誕生日に合わせて手作りのケーキでお祝いします。楽しく生活できる様に、利用者さんの声に耳を傾け、スタッフ皆で話し合い運営しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

社会福祉法人グリーンコープを母体として9県に県事業本部を置き、当事業所は熊本県事業本部で活動しています。母体がグリーンコープという事もあり、安心安全を基本としたケアに力を入れています。組織が大きく研修体制等も整い各事業所まで連絡が来た後に研修報告書が上がると言う仕組みが取られていることで、必要な研修が漏れる事はありません。又県支部で同事業者が集まり研修する場があり事業所のリーダーが集まり自己研鑽の場が提供され各事業所のスキルアップが出来る仕組みになっています。事業所の立地場所は本町アーケードの先端部に位置し古い町並みに囲まれ、近所には八幡神社という環境の中、1棟あり、道路側に面して正面入り口通所介護、調理場、その奥にグループホームがあります。グループホームの玄関は入り口の反対側独立されています。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほのかの基本理念は、開所時にスタッフ皆で話し合って決めた。利用者の対応で迷った時など理念に照らして振り返っている。社会福祉法人グリーンコープの理念「共に生きる」を、月ごとに毎朝の申し送りの際に唱和している。	朝の申し送りの際に、法人の理念と施設独自の理念を1ヶ月おきに唱和している。ケアに迷った際には、管理者が理念に添って考えるようにと伝えている為若いスタッフの言動にも、効果が出ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。地域の神社の祭りの際には、併設の訪問介護20周年感謝祭に近所に案内して、赤飯と豚汁のふるまいや、クループ内のワーカー達と手作り品やリサイクル品のバザーなど行った	町内会に入会し、地域の神社の祭りには、併設施設と協力し感謝祭を企画し住民を案内して、豚汁等振る舞いや手作り品等のバザーなど行う。普段は職員が週1回は近所を掃除し、施設に太極拳の指導者が来られる際には、近所の方を施設に誘う等の取り組みがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンを通じて、認知症への理解と、予防のための体操など実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者の様子を説明したり、事業所運営についてご意見を頂き、参考にしている。会議と併せて4月は地域包括支援センター併設の老健のOTを講師に迎え介護予防教室を開催した。11月には、地域の祭りの際に感謝祭をし利用者も参加した。	運営推進会議には、家族の出席者が毎回2～4人あり、活発な意見が出ている。会議の中で近所からシャツター音への苦情があったが改善されたり、家族から認知症のケアの研修の内容を知りたい等の要望がありその要望に応えて経緯が記録さている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員として、市担当者も毎回参加して頂き、定期的に、相談・報告している。研修会の案内をメールで頂いたり、介護制度に関する相談などもその都度行い、助言を頂きながら進めている。	運営推進会議には、市役所の職員も毎回参加されており、事業所の「医療連携の取り組み」「身体拘束に関しての指針」等の資料作成に運営推進会議のメンバーは勿論、身体拘束に関しては特に市役所職員から助言を貰い半年間かけて作成され、日頃から相談できる関係つくりができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を整備し、身体的拘束等の適正化のための検討する委員会の内容を周知し、虐待防止・身体拘束排除委員会を定期的に、行っている。身体拘束について学習を繰り返し、正しく理解しケアの実践が出来るようにしている。玄関を施錠していないので、見守りには、十分気を付けている。	身体拘束等適正化のための指針が整備されており虐待防止・身体拘束排除委員会が定期的に行われ会議の中で利用者への声掛けの方法について検討されていた。会議の中で出た意見を集約し共有化目的で文章が配布されている。実際に閲覧したがどんな言葉が虐待に当たるかが現場の職員に解り易く表現れ記載されている。	風化しないように、毎年の研修に入れておかれることに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニアルを作成し、職場内研修を行い、利用者の尊厳を大切にすることを、心がけている。自己チェックシート等を活用し研修を重ね虐待防止に、努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度の利用者が入居されていたので、成年後見人と連絡・相談していた。現在はいないが制度について研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者やご家族へ契約書を読み上げ説明を行い、不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から意見・要望があれば、管理者から職場会議で職員へ報告し検討している。運営推進会議や管理者会議・介護リーダー会議・施設ケアマネ会議でも報告・相談し運営に反映されている。家族会ではアンケートを取り、要望については職員に周知した。意見箱も設置している。	家族の出席が多い運営推進会議であり会議の際に出た利用者のリハビリ希望に対して、きちんと議論されている。又、面会時に利用者の足の冷えに対応依頼があり、レッグウオーマーを購入したこと等があり、家族が言いやすい環境づくりや雰囲気だった。家族アンケートも取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見や提案を日常的に聞いたり、意見や要望などノートに職員が、記入している。職場会議で職員と話し合い、了承された事は反映されている。	職員からの勤務形態の変更希望（1日の勤務時間帯の延長や、休日を増やす等）が、職員会議の中で話し合われて変更されるなど、職員の意見が通る環境が整っている。利用者の希望に応じて入浴回数や職員の腰痛予防への対策にも施設の負担で昇降機のレンタルをする等が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部が事業所から離れており、代表者は月1～2回の本部での会議で管理者からの報告となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では、年間研修計画をたてて、研修を行っている。外部研修の案内も常時行い参加を促している。参加後は、職場会議での報告・研修を行い職員で共有している。介護福祉士修得に向け受験対策講座を本部にて開催、介護職員の初任者研修・実務者研修の受験料・交通費の助成制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ加入し、研修会など参加し、情報交換を行っている。法人内のグループホームの職員同士の交流も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りを第一に考え、ご家族の話も併せて、これまでの生活習慣や馴染みの物を聞きだし、自宅に居るような雰囲気に近づける様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申込みの際に、ほのかの施設や共同生活についての説明をし、家族の不安な事や要望などを聞き、家族の想いがケアに活かせるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や生活習慣などを把握しながら必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持てる力を引き出すように努め、洗濯たたみ、レジ袋、新聞紙たたみや広告紙での箱作り、テーブル拭き、など毎日行っている。人生の先輩として生き方、暮らし方を教わり、職員も成長させて頂くという気持ちを持って接するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会も頻繁にある。来訪された際は、ホームでの様子を伝えている。行事の案内もし、共に楽しく過ごしてもらっている。家族会も開き家族間の交流も図っている。請求書配布時に「ほのか便り」と併せて職員の手書きのお便り（近況及び病院受診報告）を配布している。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの病院や、ご近所への散歩と近くの神社への参拝。ドライブなど	入居前のかかりつけ医や馴染みの美容院へ家族が連れて行っている。近所から入居の方には、家族や愛犬に逢いに行くような支援をしている。	今後、もう少し馴染みの関係性構築に工夫され更なる「その人らしさ」がにじみ出るようなケアに期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の生活を大切にしながら、利用者同士仲良く過ごせる様に努めている。男性が1名などで孤立しがちだが、皆さんとのゲームに誘ったり、誕生会の際は、一緒のテーブルで歌ったり、お祝いの言葉をお願いしたり、皆さんの輪に入れる様に支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほのかで看取りをおこなった利用者のご家族より毎年チューリップの球根を寄贈されたりと交流がある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りや、なにげなく話された言葉を受け留め、スタッフ間で情報交換して検討している。言葉が発せられない利用者には、ご本人の表情や態度から推察したり、家族からの情報を元に本人の希望、意向の把握に努めている。	入居前に、入院先や通所先、訪問介護や家族、本人からの意見を聞き取り介護計画を立てる。ケア会議を1ヶ月1回行い毎回利用者一人ずつ行う。又月1回は、ケアマネも同席し職員会議を開催し、それぞれの利用者のケアに対して意見交換をする場を設けケアの方針を決め共有している。	職員に利用者担当制の役割を明確にし更なる質の高いケアを目指していただけるよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状態を記録し、把握に努め申し送りの際に引き継ぎをしている。ケア会議にて情報交換し、スタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状態を記録し、把握に努め申し送りの際に引き継ぎをしている。ケア会議にて情報交換し、スタッフ間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場会議・ケア会議にて本人の様子を話し合い、本人、家族の希望や要望を聞いた上で、ケアプランに反映させている。	担当者やケアマネが利用者からの聞き取りを先に行い、スタッフ会議を開催し、ほぼ全員で担当職員を中心に会議を開催している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人提供記録に、本人の発せられた言葉・日々の様子や気づきを記入し、申し送りの際読み取りを行う。ケア会議で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの利用者や家族の状況、その時々のニーズを把握し、柔軟に対応し、支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々からの情報、アドバイスにより、利用者が心身から暮らしを楽しむことが出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を聞き、基本的に、利用者のこれまでのかかりつけ医に受診している。認知症専門医への受診も併せて行い的確な病状を把握している。病院受診の際は、職員が同行している。病状が悪化した場合などご家族、医療関係とも連携を図っている。	利用者の入居前のかかりつけ医を継続している。看護師も配置されており、病変時には同行受診している。電話等で家族に電話を入れて報告している。認知症専門医への受診も行っている。	病状の変化が家族様にも理解できるような更なる仕組みの工夫に期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師と介護職員は、相談しながら個々の利用者が適切な受診や介護を受けられる様に支援している。介護リーダーは、看護師である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院した際には、入院の手続きも職員が行い、入院中も頻繁に病院へ面会に行き、病院関係者との情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応についての指針を作成し、家族会にて説明している。ほのかでの看取りを希望される利用者には訪問診療に変更したりと医療と連携して利用者を最期まで支えている。	看取りの指針もできており、必要時には管理者が説明する。昨年、施設での看取りを行い、主治医を往診医に交代、家族に見守られ亡くなった。看取りの連携が近位の病院と出来ており、普段からも医療連携が行われ夜間でも往診や看護師の助言があり安心できる体制が整っている。施設には看護師が2人雇用されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内での訓練は、まだまだ不十分なので、今後は定期的に訓練をするように努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練を実施し、セコム立ち合いの下で、開催した。1回は、昼間、2回目は、夜間想定の訓練を行った。	年2回、セコムの業者と共に消防訓練を実施し1回は昼間で2回目は夕方に夜間を想定し庭まで連れだす訓練を実施した。	住宅密集地であり、近所の方の協力を得る事で夜間等に一人での夜勤時にも安全な避難が出来る事を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者には、敬語を使うように心がけている。スタッフによってなれなれしい言葉かけになっている時があるが、個人をの尊厳を守るような声掛けをするように話し合っている。居室に入る際は、利用者に声をかけて、入室している。	新人研修や年1回の研修がマニュアル化され周知されている。プラバシーの研修を年1回必ずするように本部から決められており実施している。プライバシーの保護ﾏﾆｭｱﾙと認知症への対応の研修の記録が保管され閲覧されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中でご本人が思いや希望を言いやすい言葉かけに心がけている。利用者の自己選択、自己決定を大切にするように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にし、希望に添える様に、柔軟に対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台に化粧水や乳液、個人所有のブラシなど準備し、ご自分で出来る方には自由に使える環境を整えている。訪問美容の利用を支援している。外出の際は、ご自分で服を選んで頂ける様に声掛けしながら選んでもらい、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなど利用者が言いやすい雰囲気に努め食べたいものがあれば、メニューに追加したり工夫している。利用者の能力に応じて、テーブル拭や、おやつ作りなどは時々利用者と一緒に行っている。	テーブル拭きを手伝う利用者が居る。手の消毒をし、口腔体操を実施、咀嚼機能を促している。花見やカラオケなどには弁当持参し、回転すしに行ったりしている。陶器の食器を使用し品数も多い。施設の畑の玉ねぎなどを使用したり、食の安全の為グリーンコープの食材を使用している。	家族にも安心を提供できるような栄養管理の仕組み作りや食事を楽しむ工夫を更に期待します。また、個人の嗜好、味付等の希望、聞き取り等への配慮も期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回記録し把握している。一人ひとりの歯の状態を把握し、食材によっては刻みやすりおろし・ミキサー食など工夫している。食が進まない方には、ぜりーやプリン、アイス、好みのパンやジュースなどを差し上げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた食後のケアに努めている。訪問歯科の利用も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けをしている。日中は布パンツのみや布パンツにパット着用、夜間は、居室にポータブルトイレを設置し、声掛けにて排泄介助を行っている。紙パンツで対応など自立に向け支援を心がけている。	利用者の24時間の生活シートを活用し、ケア会議の中で職員が検討し、昼間の紙おむつ使用から布パンツに変更され自立されている。更に昼と夜間に分け利用者の状態に合わせ声掛けのタイミング、早めの排泄誘導で自立に近づいている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録し、毎日牛乳を飲んで頂いている。便秘ぎみのかたにはバナナや乳製品、乳酸飲料など食事による便秘予防やお腹のマッサージや体操なども行い予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は基本的に日中の時間帯。入浴剤の活用や季節によっては、柚子や菖蒲を入れて季節感を楽しんで頂いている。便失禁のあった場合は入浴を促している。	個浴が設置されている。浴槽につかりたい重度の利用者には、リフトを使用する。入浴の回数や時間帯は、毎日利用者に希望を確認しており、毎日入浴者が1名、リフトでの入浴者が3人いる。入浴剤の使用やしょうぶ湯等をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々の状態に応じて休息したり安心して気持ちよく眠れるように室温の調節、布団干しなど行っている。シーツもこまめに洗濯している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬名・目的・用法・容量また病状の変化についても記録、申し送りなどによりその都度情報を共有している。薬ファイルも準備し、いつでも確認できる様にしている。投薬マニュアルを作成し、投薬の際は利用者名・日付など声に出して確認して投薬し、飲み込まれるまで見守るようにしている。飲み込みの悪い方には、服薬ぜりーなど工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事を利用者と一緒に行ったり、色々な行事などの時に挨拶をして頂いている。利用者の希望を聞いて、歌・トランプ・風船バレーなど好きな事をして頂き、活き活きと暮らせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	街の中心地に位置するので、商店街の催しなど参加している。カラオケ・花見などドライブ・外食など企画し実施した。	以前は、施設駐車場の畑の所まで行っていたが、認知症の進行と共に外出回数が減っている。カラオケや花見に出かける。施設の前にある神社の祭りに時折参加している。	外出の機会を増やし楽しい取り組みがさらに行われることに期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が預かっている。病院受診の時持参している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた際など、電話をかけて話せるようにしている。年賀状は、全員写真入りの年賀状を作成し、その方の状態に応じて名前を書いて頂いた。ご本人の希望を尋ね、複数のご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの壁には季節感のある飾りを利用者と一緒に作成し飾っている。エアコンの風を不快に思われる利用者がおられるので常時室温に留意している。加湿器や床暖房など使用して居心地よく過ごしてて頂ける様に工夫している。	季節の飾りがフロアーにしてある。昼間は居間で過ごし、温度は常に一定の温度に管理され床暖房にしている、加湿器も設置。居間兼食堂の椅子は、形がそれぞれデザインが違い、利用者の身体状況に合わせ準備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーや一人掛け椅子などその日の気分に応じて思い思いに過ごせる様に居場所の工夫をしている。一人になられた時は、さりげなく見守るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に居る雰囲気を大切にし、馴染みの家具や身の回り品など置くようにしている。ご家族の写真なども飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	レイアウトは、利用者の好みも踏まえ配置されています。家族の写真を置いてある部屋もあります。ドアには本人が好むような写真を目隠しにしている。空気の入れ替えで風邪などの予防に配慮されています。	もう少し「その人らしい」個性が出るような環境つくりに期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー廊下には手すりを設置。各居室の小窓にはその方に合ったイラストを貼っている。夜間トイレに迷わないようにトイレの電気は付けている。		